記念講演会テーマ

「守り育てよう　黄金の森と水」

森林は、木材生産や植生環境の場としてだけでなく、私達の生活にかけがえのない水を産み出す源であり、良い森林を守り、築き、次世代に繋げていくことは私達の大きな使命です。

講演要旨

水源の森の働き～その機能強化策を考える～

＜講演要旨＞

地球温暖化の影響なのか、近年、降水量の変動は大きくなり、水災害が多発している。
地球規模で見ると、水需要の急激な増加により、量と質の両面で危機的な度合いを高めている。
さいわい、わが国では降水の潤沢さと自然立地条件に恵まれ、しかも、歴史的に積み上げてきた利水と治水の優れた秩序と技術により、ほぼ安定状態におかれている。
この中で、水源の森の果たしている持続的効用は大きい。森の水に関わる働きを定量的に評価することは容易ではないが、これまでの長い間の研究により、成果が積み重ねられその限界も明らかにされている。なかでも水源かん養のために、森が長い間培ってきた土壌の働きはとくに高いようである。
この機能強化のために、森をどのように守り育めばよいのかが、重要な課題といってよい。森の水循環のサイエンスをベースに、機能強化のための改善策を検討し、その具体策を提案する。

●村井　　宏 先生

現 職 名：森と緑の研究所所長、みどりを守り育てる県民会議会長、盛岡市水道水源保全審議会会長、環境カウンセラー、技術士（森林土木）、農学博士（元岩手大学教授）
専門分野：森林水文学、森林防災工学、環境緑化工学
主な著書：水資源開発と流域保全（共著、東大出版会,1978）、総合森林学（共著、地球社,1991）、ブナ林の自然環境と保全（共著、ソフトサイエンス社,1991）

農作物を育てるいのちの水、母なる森林

＜講演要旨＞

森林は「緑のダム」ともいわれ、水源涵養機能を持っているとされる。この機能は水の流量を平準化し、良好な水質を維持することであるが、盛岡周辺の農民・地主はこのことを近世から意識していた。
鹿妻穴堰土地改良区はこの盛岡市南部の農業用水を管掌する農業水利団体である。
この改良区は昭和2年から水源である雫石川の源流域に水源林を取得し、現在もその管理を続けている。水源林の面積は関東地方の水道事業体の水源林に比べると圧倒的に小さいが、農業水利団体が水源林に関わり続ける意義を考察したい。

●泉　　桂子 先生

現 職 名：都留文科大学社会学科環境・コミュニティ創造専攻　講師、博士（農学）
専門分野：森林計画、森林政策
主な著書：『近代水源林とその軌跡』東京大学出版会、2004年

森が育てた海のめぐみを山に活かす

＜講演要旨＞

日本の水環境における課題の一つに富栄養化問題があげられる。水域の富栄養化は山林や田畑などから流れ出てくる汚れも大きな原因であり、結果として植物プランクトンの異常増殖（アオコや赤潮）を招くなど、漁業や生態系に悪影響を与えている。一方、汚れが流れ着く海では、本来ならば汚れを効果的に浄化してくれるはずの藻場や干潟が激減してしまった。健全な海の再生には、海の森である藻場づくりなどとともに、その利用と管理も求められる。海の利用にともない、発生する水産廃棄物の源が陸域からの汚れ（栄養分）とするならば、海から山への栄養の還元も必要であろう。その栄養の再利用が、山の森づくりにつながることに期待したい。

●山田　一裕 先生

現 職 名：岩手県立大学総合政策学部教授、博士（工学）
専門分野：環境生態工学・水環境管理と評価
主な著書：「水しらべの基礎知識」オーム社、「河川汽水域－その環境特性と生態系の保全・再生」技報堂出版
そ の 他：資格「環境カウンセラー（市民部門）」